

## 2014.8.20広島土砂災害，コミュニティFMは何を伝えたか What the Community FM Radio station has broadcasted since “2014 Hiroshima landslides disaster”

貫名 貴洋<sup>1</sup>  
Takahiro KANMEI

<sup>1</sup> 広島経済大学 経済学部 メディアビジネス学科 Hiroshima University of Economics

**要旨**・・・2014年8月19日から20日未明にかけて広島市を局地的に襲った豪雨の影響によって安佐南区・安佐北区において広範囲の土砂災害が発生し74名の尊い命が失われた。この「8.20広島土砂災害」時に、広島コミュニティFMは何を伝えたか検証する。また、災害時における情報伝達手段として、コミュニティFMがどうあるべきか、そのために何を準備すべきであるかについて考察していく。

**キーワード** コミュニティFM 広島土砂災害 災害時情報伝達 大学生

### 1. はじめに\*

2014年8月19日深夜から20日未明にかけ、広島市安佐南区・安佐北区に局地的に降った豪雨の影響によって、74名の尊い命が失われるなどの甚大な被害をもたらした「8.20広島土砂災害」が発生した。広島という瀬戸内独特の温暖かつ穏やかな気候の影響もあり、例えば「甚大な被害をもたらす台風接近」などという報道があっても「どうせ今回も広島には影響はないだろう」と、どちらかというと防災意識が低い傾向が広島県民には強い<sup>1</sup>。しかしながら、わずかに過去30年の間でも、1988年7月20～21日の「県北西部豪雨災害」（死者14名）、1991年9月27日の台風19号（死者6名）、1999年6月29日の「6.29広島土砂災害」（死者31名、行方不明1名）、2001年3月24日の安芸灘地震（死者1名）など、甚大な被害をもたらす自然災害を数多く経験している。

この被災地である安佐南区には、「FMハムスター」<sup>2</sup>というコミュニティFM（以下CFM）放送局が存在する。FMハムスターは、2009年5月に広島経済大学メディアビジネス学科の教員と学生有志によって設立された放送局である<sup>3</sup>。2013年4月～6月の3ヶ月間の放送休止を一旦経たものの、開局7年目を迎えている。現在は広島経済大学興動館の公認プロジェクト「コミュニティFM放送局運営プロジェクト」に所属する学生約40名が番組制作にあたっている。FMハムスターの放送エリア内の広島市安佐南区祇園・山本地区においても、1926年9月11日の豪雨災害によって溺死者24名、負傷者21名、流出家屋16戸、半流失家屋16戸、流失田畑約30haという大きな被害を受けた経験がある。2011年東日本大震災後、身近な災害を調べようと広島経済大学の大学生たちがこの約90年前の災害について取材し番組制作・放送を行っていたが、このたびの災害にその経験は全くと言っていいほど生かされなかった。また、FMハムスターは「広島市安佐南区」を聴取エリアとしているが、実際のところ全面積の4分の1程度しかカバーし切れていない。今回最も被害の大きかった安佐南区八木・緑井地区の大半は可聴エリアであったものの、通常の放送時間帯が月～金の9:00～18:00と、必要な情報を十分に発信しきれたとはいえない。

広島市内にもう一局あるCFM放送局「FMちゅーピー」<sup>4</sup>は、広島市南区黄金山に送信所を構えており、市内中心部を放送エリア

\* 本研究の一部は、平成26年度広島経済大学特定個人研究費の助成を受けている。

<sup>1</sup> 2013年台風24号は、10月7日9時時点の気象庁発表では、1991年に広島に甚大な被害をもたらした台風19号とよく似た進路をとると予測されかなり警戒されていた。しかし翌8日9時時点では北側に進路予測が変更され、9日午前中には日本海沖を通過し、広島に大きな被害はなかった。

<sup>2</sup> 広島県広島市安佐南区、NPO局。2009年5月11日開局。周波数は79.0MHz。筆者は、特定非営利活動法人エフエムハムスターの理事（事務局長）を2011年より兼任している。

<sup>3</sup> FMハムスター設立に至った経緯や名称の由来などについては、松井・古本・長谷川(2011)や貫名(2012)を参照されたい。

<sup>4</sup> 広島県広島市中区、純民間局（ただし中国新聞社によるメディアミックス型）。2000年5月1日開局。周波数は76.6MHz。2014年9月10日に電話取材、10月16日に局を訪ね、制作・業務担当の堀部正拓氏（中国新聞社からの出向）から詳細なお話を伺った。特に、8月20日の土砂災害発生以降のような放送を送り出してきたか、緊急割り込み放送の実施、2013年5月31日に締結した広島市とFMちゅーピーの災害放送協定の実状等について聞くことができた。また、議題の一つとして「番組試聴「土砂災害に関する対応（ダイジェスト版）」（2014年8月20日～21日放送

としているため、今回の被災地区はその隣接区ないし隣々接区であり一般的な放送エリアとするには若干厳しい状況にある。

阪神・淡路大震災、東日本大震災以降、災害時の情報伝達手段としての活用が叫ばれて久しいが、今回の8.20広島土砂災害においては、CFMが「無用の長物」と揶揄されても全くおかしくない状況にあった。被災地の方々に安心を届けることも、必要な情報を届けることもできず、もしかするとCFM放送という媒体を必要とさえしていなかったかもしれない。このような反省を生かし、もう一度災害時にCFM放送局はどうあるべきなのかを実証研究する必要性に迫られているのではないかと考え今回の研究を進めることとなった。

## 2. 災害時における放送設備や準備体制

### (1) 災害時におけるコミュニティ FM の役割

CFM 放送の重要な役割は、地域密着、地域住民参加、防災対応・災害発生時における情報発信であることは、放送に従事する者、行政担当者、CFM 放送研究者等、いずれの関係者においても当然のことと認知されていることであろう。1995年に発生した阪神・淡路大震災を契機に CFM 放送局の有効性と重要性が認められ、2004年の新潟県中越地震や2010年の奄美豪雨、2011年の東日本大震災などにおいても、既存の CFM 放送局や災害後に開設された臨時災害放送局が、地域住民の安否確認情報や生活に必要なライフライン情報を流し、地域住民に寄り添った放送を送り出してきた。また、災害時に柔軟に対応できるよう、行政と連携し災害時協定を締結したり、行政による緊急割り込み放送設備を設置したりするなど、さまざまな取り組みをしている。

### (2) 他局での防災や災害時放送の取り組み

京都三条ラジオカフェ<sup>5</sup>では、「災害情報共有システム（L-ALERT）」からの情報収集を放送に使用、毎月一回の定例緊急放送訓練の実施、京都市や区が実施する総合防災訓練に参加しその模様を生放送で届けることによって住民への意識喚起を行うなど、さまざまな防災対応に取り組んでいる。FM おのみち<sup>6</sup>では、1998年10月の台風10号により尾道市内の民家の裏山で土砂崩れが発生し3名が死亡する惨事も踏まえて、行政主導で1999年に開設されたコミュニティ放送局であり、尾道市の災害計画の中でも情報伝達経路の一つとして取り上げられている。防災情報伝達に対しても、気象警報発令と同時に尾道市と警戒態勢に入り、社員3人が事前の役割分担に基づき、放送・情報収集にあたる。さらにエフエムおのみち Web 上にて、「日頃の備え」の記事として、風水害・台風・火災・地震に関する情報を掲載し、市民がいつでもアクセスできるようになっている。FM いずも<sup>7</sup>では、2005年の平成の大合併により2市4町が合併し現在の出雲市が誕生した際、合併前の災害情報伝達手段がまちまちであったため、CFM 放送を強化化する必要があった。2006年7月に発生した豪雨災害では、斐伊川・神戸川の上流にある来島ダムの水位が上昇したことによる放流情報を、30分に1回、水が引くまで送り続けた。その際は十分な可聴エリアと人口をカバーしきれていなかった。国や自治体からの補助も受け、2011年に全地域を可聴エリアとする鉄塔を建設したり、全コミュニティセンターに緊急時刻割り込み放送に対応した防災ラジオを配置したりするなど、官民が一体となる体制を整えている。FM NI<sup>8</sup>は、野々市市<sup>9</sup>が株式会社に出资している関係もあり、毎年500時間分の放送を確約し、その対価として多額の委託費用が放送局に支払われている。市役所内部に開放型のサテライトスタジオを有しており、市長をはじめとする管理職員はもちろんのこと、全市役所職員も必ずこのスタジオから番組出演することにより、住民と行政、放送局と地域が常に寄り添った形で放送局運営がなされている。災害発生時には、市役所からも緊急時刻割り込み放送を FM NI の電波を通じて流すことが可能である。一方、2015年4月より、防災行政無線を全地域に初めて配置することで、地域住民に対して CFM 放送と2つの情報伝達手段を有することとなった。

分）」を取り上げた第61回番組審議会（2015年10月3日）の議事録やその音源をお借りするなど、多大な協力をいただいた。

<sup>5</sup> 京都府京都市中京区、NPO 法人局。2003年3月31日開局。周波数は79.7MHz。2014年8月19日、時岡浩二放送局長から詳細な話をお伺いした。特に防災と放送の関わりなどについて貴重なご意見をいただいた。このヒアリングの数時間後に広島で予期せぬ災害が発生してしまい、時岡氏からも心遣いの連絡を数日後にいただいた。

<sup>6</sup> 広島県尾道市、第3セクター局。1999年6月1日開局。周波数は79.4MHz。2014年11月21日、川村佳己局長から詳細なお話を伺った。

<sup>7</sup> 島根県出雲市、純民間局（ただし島根日日新聞によるメディアミックス型）。2003年4月16日開局。周波数は80.1MHz。2015年3月5日、菊池恵介局長および島根日日新聞の菊池幸介社主から詳細なお話を伺った。

<sup>8</sup> 石川県野々市市、第3セクター局。1995年12月27日開局。周波数は76.3MHz。金沢工業大学および野々市市が主要株主。2015年3月10日、坂野信生放送局長および西本百合子総務室長から詳細なお話を伺った。

<sup>9</sup> 石川県のほぼ中央に位置し、山・海のない全くの平坦地に存する市。人口51,885人（平成22年10月1日現在（国勢調査の人口確定数））。2015年3月11日、FM NI 放送の担当部署である市民生活部市民協働課の北洋一課長補佐および中山博貴主査から詳細なお話を伺った。

### 3. 広島における豪雨・土砂災害

過去の災害に学ぶことは重要なことである。すでに述べたように、われわれは忘れやすく、災害に対する関心は、時間とともに急速に低くなってしまふ。数十年前の災害のことなど、忘れ去られても無理はないかもしれない。しかし、災害について学ぶ立場の者は、できる限りの過去の記録を集め、「本当にこの災害は、この地域で過去に起こらなかったほどの事象なのか？」ということを探求したいものである。<sup>10</sup>

この文章は、牛山(2012)の第2章において、1999年6月29日に広島市周辺で発生した豪雨災害を例として、過去約100年程度の豪雨事例と最新の豪雨事例を比較しようと試みた冒頭部分で書かれた文章である。「820 広島土砂災害」は、この地域で過去に起こらなかったほどの事象なのか。ここ数年、局地的な集中豪雨を「ゲリラ豪雨」と称したり、過去に例を見ない土砂災害が発生したとの報道が毎年のようになされたり、こうした災害は「地球温暖化」や「異常気象」が要因であるの一言で片付けてしまう傾向が無きにしも非ずである。表1は、広島県における災害のうち、1945年以降の土砂および水害に関する災害をまとめたものである。この表からもわかるように、1945年以降だけでも数年に一度のペースで広島県内で大規模な豪雨・土砂災害にみまわれている。この表に現れていない中小規模の災害も加えると、ほぼ毎年起きているといっても過言ではない<sup>11</sup>。

表1 広島県における過去の災害情報<sup>2</sup>

	1945年9月17日 枕崎台風	1951年10月14日 ルース台風	1967年7月8日 豪雨災害	1972年7月11日 豪雨災害(東北)	1983年7月20～23日 豪雨(東北)	1988年7月20～21日 東北西部豪雨災害	1991年9月27日 台風19号	1993年7月27日 台風5号	1999年6月29日 6.29広島土砂災害	2004年8月30～31日 台風16号	2004年9月7日 台風18号	2010年7月11～16日 7月豪雨災害
死者	1229人	132人	159人	35人		14人	6人		31人		5人	5人
傷者	1054人	361人	231人	105人	2人	11人	49人	3人	59人	9人	142人	6人
行方不明者	783人	34人		4人					1人			
家屋全壊	2127戸	716戸	514戸	349戸	5戸	38戸	50戸	11戸	101戸	1棟	27棟	19棟
家屋半壊	3375戸	1267戸	605戸	2171戸	3戸	20戸	442戸	8戸	68戸	4棟	204棟	35棟
家屋流失	1330戸	350戸			3戸				22661戸			
一部損壊				488戸	14戸	15戸						
床上浸水	24168戸	5726戸	10690戸	5169戸	73戸	72戸	3005戸	54戸	1284戸	1,379棟	860棟	254棟
床下浸水	28358戸	17863戸	49249戸	11031戸	538戸	459戸	9162戸	713戸	2763戸	5,799棟	3,128棟	1,407棟
橋梁流失	1096箇所	285箇所	108箇所	313箇所	19箇所	7箇所	2箇所	9箇所				3箇所
道路損壊	1135箇所	2092箇所	1084箇所	4637箇所	1378箇所	219箇所	160箇所	1180箇所		61箇所	140箇所	413箇所
堤防決壊	1252箇所											

図1 都道府県別土砂災害危険箇所<sup>13</sup>

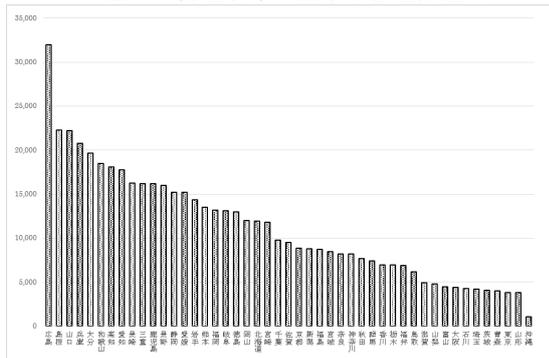
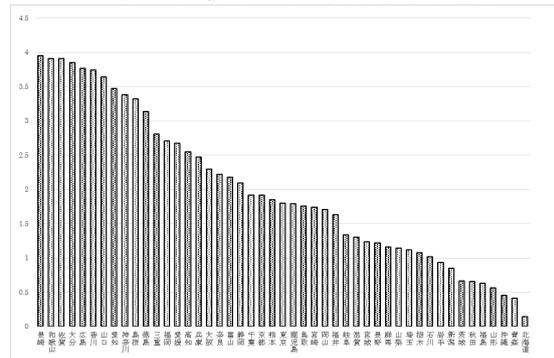


図2 面積あたり土砂災害危険箇所<sup>14</sup>



広島県における土砂災害危険箇所のデータを分析する。図1の都道府県別土砂災害危険箇所の数値を見てみると、広島県は全国47都道府県中1位の31,987箇所であり、2位島根県(22,296)と3位山口県(22,248)よりも1万箇所近く多い。広島県の土砂災害危険箇所は全国合計の525,307箇所中6.09%を占めており、面積に占める2.24%を大きく上回っている。また、図2の面積あた

<sup>10</sup> 牛山(2012), 37ページ。

<sup>11</sup> FMハムスター開局直後の2009年7月下旬、広島市において雷を伴う大雨が1週間程度続き、安佐南区からの要請もあり、通常放送を中断して緊急放送を流した経験がある。広島県東広島市内で、1976年からの観測史上最多の24時間雨量を計測する豪雨による土砂流入によって、1名の死亡が確認されている。

<sup>12</sup> 「広島県防災Web」に掲載されている災害のうち、土砂および水害の両方に関連している災害について抜粋し筆者が作成した。

<sup>13</sup> 国土交通省砂防部「都道府県別土砂災害危険箇所」、平成14年度公表。土砂災害危険箇所等とは土石流危険渓流等、地すべり危険箇所、急傾斜地崩壊危険箇所等の総称。筆者によって降順に並べ替えた。

<sup>14</sup> 面積あたり土砂災害危険箇所＝都道府県別土砂災害危険箇所÷都道府県別面積(平方km)。筆者の計算によって求めた。都道府県別面積は、国土交通省国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」の平成25年度数値による。

り土砂災害危険箇所を見ても、3.77箇所平方kmと全国5位の水準である。広島県は花崗岩が風化してできた真砂土（まさど）と呼ばれる水はけのよい地盤からなっている。このため、他地域に比べ局地的な豪雨が発生した場合、土砂崩れや土石流といった被害をもたらす危険性が高いのである<sup>15</sup>。さらに、平野が狭く急傾斜地に住居などを建設しないと土地活用ができないため、山を切り崩して宅地造成をする結果、「急傾斜地崩壊危険箇所」付近に住居を構えているといった例も少なくない<sup>16</sup>。

突発的に発生する自然災害から国民の身を守るという観点では、防災基本計画などでも地震・津波災害に対して大きなウェイトが掛けられているが、毎年全国のどこかで発生している豪雨・土砂災害を軽視してよいといったものではない。むしろ、豪雨・土砂災害の発生頻度は高く、損害額に換算した場合でも被害の大きさが他の自然災害を圧倒しているのである<sup>17</sup>。

#### 4. 8.20広島土砂災害におけるコミュニティFM放送内容<sup>18</sup>

##### (1)災害発生時の広島市からの災害情報伝達

「8.20 広島土砂災害」時において、あまりの突発的かつ深夜時間帯での豪雨と土砂災害であったため、災害発生時およびその直後に広島市から十分な情報発信がなされたとはいえない。8月19日の降雨開始時以降における情報発信を追ってみる<sup>19</sup>。8月19日21:26、気象庁より大雨警報および洪水警報が発令される。広島地方では、8月1日より断続的に雨が降り続く状況であり、この時点前には0.0mm以下の降水量が記録として残っているのはわずか5日のみであった。こうした影響もあり、直後に広島市防災課より「大雨に関する注意喚起」として土砂災害発生の可能性を報じている。いったん23:33に洪水警報は解除されたものの、翌20日1:15に広島市全域に土砂災害警戒情報が、12:1に洪水警報が発表された。直後に広島市防災課より「土砂災害に関する注意喚起」が出されている。しかしながら、広島市・安佐南区・安佐北区に災害対策本部が設置されたのは2時間以上も経った3:30である。その後、安佐北区に初めて避難勧告が発令されたのが4:15、安佐南区に初めて避難勧告が発令されたのが4:30、安佐南区に初めて避難指示が発令されたのが7:58と、行政の対応が後手に回っていたことは否めない。

##### (2)FMちゅーピーの事例

FMちゅーピーにおいては、8月20日3:00過ぎ、国土交通省太田川河川事務所から緊急割り込み放送の実施要請があり、4:17に高瀬堰からの放流をはじめるという緊急放送を実施した。6時台にはJ-WAVEの全国ニュース番組を通して土砂災害の情報が届けられ、自主制作番組として初めて情報を送り出したのは8:50のニュース番組以降である。防災協定に基づき、広島市防災課や市災害対策本部の助言に従い、水道局の断水情報を紹介したり、各種交通機関や停電・給水車などのライフライン情報をWebサイトから集め番組内で紹介した。この際、FMちゅーピーも加盟している「災害情報共有システム（L-ALERT）」から情報を得るよりも、広島市防災情報メール配信システムによって情報を入手するほうが迅速に対応できる状況であり、こうしたシステムも大いに活用している。22日からは各種義援金の情報を、23日からは広島市社会福祉協議会が受付を開始したボランティア募集や参加の際の注意点などを生放送で紹介した。25日になって、広島市災害対策本部から行方不明者名簿が公開され、名簿の読み上げを開始した。こうした情報は、災害が落ち着くまで継続的に放送された。

専門家の解説としては、FMちゅーピーでは、8月26日に広島県警察の犯罪情報官から現地の状況や空き巣被害など被災者を狙った詐欺の可能性について解説してもらったり、27日および9月9日には防災の専門家である神戸学院大学の中田敬司教授に出演してもらい、今回の災害や今後の防災の取り組みについて詳しく解説している。

##### (3)FMハムスターの事例

FMハムスターは、通常放送時間帯が月～金の9:00～18:00である上、災害の影響による停電で放送復旧に時間がかかり、安佐南区災害対策本部などの情報を送り出すことができたのは10:30以降である<sup>20</sup>。被災地域の安佐南区緑井に居住する大学生スタ

<sup>15</sup> 2013年6月25日18時ごろ広島県廿日市市で発生した土砂崩れでは、住宅の裏山が崩れ1名の方が亡くなっている。この災害発生当時、近郊にある廿日市津田や大竹のアメダスにおける降雨記録はなく、19日～21日に降り続いた雨の影響を考慮せざるを得ない。

<sup>16</sup> 坂の町と呼ばれる呉市や尾道市など、山の斜面に多くの住居が並ぶ風景は珍しいものではない。

<sup>17</sup> 内閣府『防衛白書』による。

<sup>18</sup> 本章は、「広島市土砂災害の対応まとめ」（FMちゅーピー）および「2014/8/20 広島市土砂災害における対応について」（FMハムスター）をもとに記したものである。

<sup>19</sup> 情報の発信日時および内容は、「広島市防災情報メール配信システム」によるものである。

<sup>20</sup> FMハムスターの演奏所・送信所のある広島経済大学においても豪雨災害の影響を大きく受けている。停電の他、構内において大小10箇所の土

ップと電話を繋ぎ、現場の様子を語ったのが8月20日12時半過ぎである。翌21日には、避難所の一つである安佐南区梅林小学校に避難していた地域の方、被災後に現場を見て回った高校地学科教諭や防災士の方に電話出演依頼をしている。安佐南・安佐北両区に設置された避難所全てに事前に電話をかけ、避難されている方の数や避難所の様子などを伝えた。また、災害発生当時は道路が冠水していた安佐南区祇園において取材した模様も紹介されている。安佐南区災害対策本部からの情報は、広島市防災情報メール配信システムに届く内容を利用した。中国電力、水道局、各種交通機関などのライフライン情報は、各団体からWebサイトからの情報利用許諾を得た上で番組内において送り出した。26日には、徳島大学環境防災研究センターの西山賢一准教授に生出演していただき、今回の災害が起きた原因、どのくらいの雨量を計測した時に避難を開始すればよいのか、今後このような災害に備えて注意しておくことなどを説明した。また28日には2名の大学生スタッフが、被災地である安佐南区八木や避難所の梅林小学校を訪ね、電話中継で現状についてレポートした。

9月上旬になり、再び大雨に関する情報や災害対策本部から避難準備情報が発信されるようになり、情報が入手され次第緊急放送を差し込む機会が増えていった。9月1日に「高校生災害復興ボランティア」の取材や佐東公民館および梅林小学校にて子供達への取材を行った。9日には6名の大学生スタッフが二手に分かれ、安佐南区八木、安佐北区亀山・桐原に取材に出かけた。安佐南区八木では、被災者から周辺の被害状況やその方の所有されている畑の状況などを聞いて回った。安佐北区亀山は、1999年の「629 広島土砂災害」にて4名の方が亡くなった地区であり、災害後に建設された砂防ダムや現状の町の姿を見て回った。災害から15年もの時間が経過すると、人々の脳裏から災害が起こったことを忘れてしまったり、関心が薄れていってしまったりという傾向がある。「629 広島土砂災害」の現場にて、改めて災害を「風化」させてはならないことを確認した。安佐北区桐原では、災害発生以降 SNS を通じて桐原地区の災害状況やボランティア募集の発信を続けていた自治会長に災害時の状況やその地区の特徴などを聞き、またボランティアスタッフを支援する活動をされている方へのインタビューなどを行った。安佐南区八木・緑井の被害が酷かったためか、全国および県域のマスメディアは安佐北区桐原や隣の三入の情報をほとんど伝えていなかった。しかしながら桐原地区も土石流が箇所を襲い、88世帯中9世帯が床上浸水、40世帯が床下浸水の被害にあった。もちろん避難指示地域に指定されており、指示解除があるまで復旧はできないという見通しであった。こうしたマスメディアで伝えられない情報伝達こそがCFM放送が担うべき役割であり、放送可聴エリア外ではあったが取材を行い、後日放送によって届けることにした。このような、大学生が被災地に自ら入って行き、積極的な取材活動によって得られた情報をCFM放送によって伝達するというケースは非常にまれであり、全国・県域を問わずテレビ・ラジオ・新聞等によって広く報道された。

## 5. 今後に向けて

「8.20 広島土砂災害」において、筆者も運営に携わっているFMハムスターが基幹放送局としてその役割を担うことになったのも偶然の出来事ではない。本研究を通して、改めて地域密着、地域住民参加、防災対応・災害発生時における情報発信というCFM放送に求められる役割を認識する必要があることを確認できた。巨大地震や突発的に起こる大災害に対しての準備もさることながら、毎年日本のどこかで、いや、数年おきに広島のどこかで発生している豪雨・土砂災害といった発生頻度の高い災害に対しても高い意識を持ってCFM放送運営に携わるべきであろう。そのためにも地域をよく知り、地域に溶け込み、地域とともに、CFM放送局が歩んでいかなければならないのである。

最後に、「8.20 広島土砂災害」において最も被害の大きかった安佐南区八木地区に伝わる物語で本稿を纏めたい。

「天文元年壬辰二月二十七日 八木村阿生山宇中迫に於て 當村の勇士香川右衛門太夫勝雄 大蛇を退治す  
その首當地に落ちて隠れたと言ふ 因って蛇王池と稱す」

この文章は安佐南区八木に伝わる「蛇王池伝説」であり、当地に碑石も設置されている。災害発生直後、この伝説を知った筆者が初めてこの碑石を確認した際には、碑石の手入れが行き届いておらず、碑文もうつすらとしか読めない状況であった。しかしながら、災害から約半年が経って再び碑石を訪ねてみると、碑石の前に花立と線香台が新たに設置され、碑文にも墨が入れられていた。この碑文が何を言わんとしているかは本稿を読んでいる方の心に委ねたい。少なくとも碑石を整備された地域の方はこの碑文の意味を重々承知のことだろう。地域にはさまざまな情報が溢れている。CFM放送に携わるということは、こうしたヒントを地域からくまなく集め、そして地域に発信していくことに他ならないのである。

---

砂崩れが発生した。災害当日は正門付近にも大量の土砂が流れ込み、スタジオに駆けつけようとした大学生が構内を迂回してようやくたどり着ける状況にあった。さらに、学生の安全を確保するために15時を持って構内から退去するよう要請があり、災害後しばらくの間、思うような放送を送り出せる状況になかったことを付記しておきたい。

## 参考文献

- 中国新聞社(2014)：『2014 8・20 広島土砂災害一緊急出版・報道写真集』，中国新聞社。
- 船津衛(2006)：「コミュニティ・メディアの現状と課題」，放送大学研究年報，24号，25-33ページ。
- 古川柳子(2012)：「コミュニティFM 災害放送における情報循環プロセス」，マス・コミュニケーション研究，81号，105-123ページ。
- 井上悟(2014)：『成功するコミュニティFM 放送局II《改訂版》』，東洋図書出版。
- 海堀正博・柳迫長三(2015)：『平成26年8月20日広島豪雨災害体験談集』，（公社）砂防学会2014年8月広島大規模土砂災害緊急調査団，広島市防災士ネットワーク。
- 金山智子(2007)：『コミュニティ・メディア—コミュニティFMが地域をつなぐ』，慶應義塾大学出版会。
- 貫名貴洋(2012)：「大学が出資・運営に関与しているコミュニティFM 放送の現状と課題について：FMエヌ・ワン，FM 甲府，FM ハムスターの比較を通して」，広島経済大学経済研究論集，35巻1号，39-56ページ。
- 北郷裕美(2015)：『コミュニティFMの可能性—公共性・地域・コミュニケーション』，青弓社。
- 紺野望(2010)：『コミュニティFM 進化論—地域活力・地域防災の新たな担い手』，シヨパン。
- 松井一洋・古本泊・長谷川泰志(2011)：『こちらはFM ハムスター—地域コミュニティの未来を担う小さな一歩』，（広島経済大学研究双書），ジャパンインターナショナル総合研究所。
- 松井一洋・堂本絵里(2013)：「FM ハムスターによる地域コミュニケーションの変化と展望」，広島経済大学地域経済研究所共同研究報告書，共同研究11-B。
- 災害とコミュニティラジオ研究会編(2014)：『小さなラジオ局とコミュニティの再生』，大隅書店。
- 牛山素行(2012)：『豪雨の災害情報学（増補版）』，古今書院。

### <新聞掲載記事>

- 「台風10号被害，死者13人，不明2人」，日本経済新聞朝刊，1998年10月19日，39ページ。
- 「残った，深いつめ跡 大雨に被害続出 台風10号颯々抜ける」，朝日新聞朝刊，1998年10月19日，広島面。
- 「人家に道に，大雨直撃 26世帯，一時自主避難」，朝日新聞朝刊（大阪島根全県），2006年7月18日，28ページ。
- 「来島ダム放流 規定通り，誤りなし」，朝日新聞朝刊（大阪島根全県），2006年8月12日，30ページ。
- 「豪雨，東広島で2人死傷 民家全壊，建設残土が流入」中国新聞朝刊，2009年7月26日，1ページ。
- 「廿日市土砂崩れ，不明女性の死亡確認 避難住民，不安募らす」，中国新聞夕刊，2013年6月26日，1ページ。
- 「被災地明るい声届ける 大学生，FM局で情報発信」，日本経済新聞夕刊，2014年8月26日，15ページ。
- 「「人ごとにしなさい」が原点」，中国新聞朝刊，2014年9月3日，10ページ。
- 「被災地の「今」ラジオで発信」，中国新聞朝刊，2014年9月11日，31ページ。
- 「学生ラジオ社会を学ぶ」，中国新聞朝刊，2014年12月7日，27ページ。

### <閲覧ホームページ>

- 広島県防災 Web：<http://www.bousai.pref.hiroshima.jp/hcds/>
- 広島市防災情報メール配信システム：<http://www.k-bousai.city.hiroshima.jp/>
- 国土交通省砂防部：<http://www.mlit.go.jp/riversabo/>
- エフエムおのみち Web：<http://www.fmo.co.jp/>
- 気象庁過去の気象データ検索：<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etm/index.php>